

被災地支援と災害への備え

大規模災害発生時は、被災した自治体だけでは災害対応が追いつかず、他自治体や団体との連携や支援が重要になります。令和6年能登半島地震でも、市では国や県などと連携しながら速やかに職員派遣などの支援を行いました。

固危機管理室(TEL6384・1753FAX6369・6080)

給水車を派遣 応急給水活動など

被災地は大渋滞。車での移動ができず、近隣の店舗にもわずかなストックしかありません。日頃から意識して飲料水や食料を備蓄する大切さを改めて実感しました



▲夜間、雪が積もる中での給水活動

消防隊を派遣 行方不明者の捜索など

消防庁からの出動指示に基づき、災害が発生した1月1日から派遣を行いました。

寒さを伴う過酷な環境下での活動だったので、出動地域に見合った準備の必要性を実感しました



▲倒壊家屋内での行方不明者の捜索

危機管理室職員を派遣 避難所運営を支援

避難者のみなさんは、大変な状況の中でも思いやりをもって生活されていました。早く日常を取り戻せるように支援を続けていきたいです



▲避難所での炊き出しの配食準備

保健師などを派遣 被災者の健康ケアなど

倒木や道路の損壊で孤立している集落もあり、被災者を訪問するにも、まず通れる道を探すことから始めることも。現地には全国から支援チームが集まっており、本市でも被災時に保健医療の支援を受け入れる体制を整備しておく必要性を再認識しました



▲孤立集落などの被災者を訪問し、支援を行う保健師

災害マネジメント総括支援員を石川県輪島市に派遣

災害マネジメント総括支援員(GADM)とは

被災した自治体が行う災害対応を総括的に支援する職員として総務省に登録されている、自治体の管理職職員。大規模災害発生時には、登録者の中から総務省によって派遣される職員が選出されます。

派遣された職員は、災害によって生じるさまざまな課題に対し、被災自治体が必要な対応を行うために、これまでの災害対応経験を活かしながら、被災自治体の市長への助言や幹部職員との調整などを行います。

市役所到着時、水は止まり電波も届かず、テレビも映りませんでした。命に関わる対応をする間にも待ったなしで続々と連絡が入り、本部は混乱しパンク寸前。私たちは情報の整理を行い、市長や幹部職員に現状と見通しを共有し、「孤立集落解消プロジェクト」などを立ち上げ、優先順位や目標の設定を支援しました。

また、外部からの応援職員を含む関係職員が一丸となるよう、「輪島おONEチーム」をつくった時には、輪島市職員から気力が湧いてきたと喜んでもらえ、うれしかったです。

今も過酷な現地で、輪島市民のために最善を尽くす輪島市職員に毎日エールを送り続けています



▲「輪島塗」と「チーム一丸」をテーマに輪島市職員と考えたチーム名とロゴ



▲避難者生活支援プロジェクトについて、市長や幹部職員に説明する有吉危機管理室長

義援金など その他の支援

- 石川県へ災害見舞金100万円を支給
- 日本赤十字社大阪府吹田支部地区での義援金受け付け
- 市内施設に募金箱を設置

引き続き、みなさんのご協力をお願いします



詳しくは市ホームページへ

本市が被災した場合にも、他自治体や団体の支援を受けることになります。明日は我が身、困った時はお互いさまという気持ちで他自治体などとの関係性を築いておくことが本市が被災したときの大きな助けとなります。本市では、これからも積極的に被災地支援に取り組むとともに、活動を通じて職員の災害対応力のレベルアップを図り続けます。

災害から身を守るには

市民一人ひとりが備えること(自助)と、周りの人や地域で助け合うこと(互助)が大切です。

防災ブックを確認しよう

ハザードマップや防災マップ、日頃の備えなどの防災情報を掲載しています。



防災ブックのウェブ版はこちら

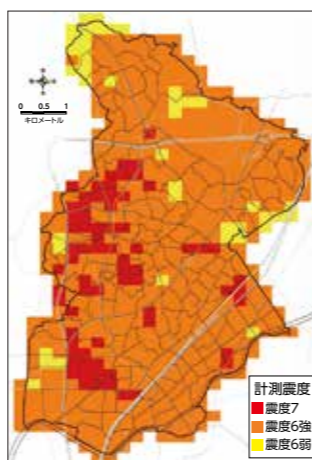


防災ブック

市の災害リスク

市では、能登半島地震と同じ直下型地震の上町断層帯地震のリスクが懸念されます。上町断層帯は、全国の活断層の中でも最もリスクが高いSランクとされており、市の被害想定は南海トラフ地震よりも大きいものとなっています。ほかにも、近年は全国的に台風や豪雨などによる風水害も多発しており注意が必要です。

上町断層帯地震の市の被害想定図(「吹田市地震被害想定」より)



上町断層帯地震が起きると、市内ほぼ全域で震度6強以上

計測震度
震度7
震度6強
震度6弱

災害対策の中心的な役割

危機管理センター (EMC)

危機管理室の事務室のほか、災害対応オペレーションルーム、無線室、災害対策本部を設置する会議室などの災害対応機能をワンフロアに配置、常設しています。有事には、瞬時に災害対応オペレーションシステムを立ち上げ、迅速な対応にあたります。

市でも災害時の体制強化を進めています

吹田市総合防災センター(DRC Suite)

災害時には施設の一部を自衛隊や国、全国の自治体などの支援者の活動拠点として運用し、EMCと連動した市北部の災害対応拠点となります。また、EMCが使用できなくなった場合のバックアップ機能を有する施設としても位置付けています。

4月から運用開始
詳しくは2ページへ